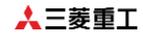


2022年度第1四半期決算説明資料

2022年8月5日

三菱重工株式会社

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.



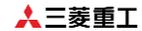
それでは、資料に沿って決算実績について説明します。

I. 決算のポイント	3-6
II. 2022年度第1四半期決算実績	7-15
・ 連結経営成績サマリー	
・ 連結財政状態、キャッシュ・フロー	
・ 事業利益増減分析	
・ セグメント情報	
III. 2022年度業績見通し	16-18
IV. 補足資料	19-22

資料の構成は、目次に記載のとおりです。

I. 決算のポイント

2022年度第1四半期決算実績ハイライト



- **受注高：9,178億円**（前年同期比：+1,673億円）
全セグメントで前年同期比増加
主な事業別では、GTCC、航空エンジン、製鉄機械、物流機器、冷熱、
防衛・宇宙が好調【詳細はスライドP.6で補足】
- **売上収益：8,713億円**（前年同期比：+196億円）
エナジーと物流・冷熱・ドライブシステムが前年同期比増収
主な事業別では、GTCC、航空エンジン、物流機器、冷熱が好調
- **事業利益：149億円**（前年同期比：△65億円）
石炭火力事業の欧州拠点縮小に伴う一時費用、材料費・輸送費の高騰に対する
価格適正化の実現時期の時間差などの減益要因があるものの、
売上増、固定費削減、アセットマネジメントにより149億円の事業利益を確保
- **当期利益：191億円**（前年同期比：+65億円）
円安進行による為替差益が寄与し、前年同期比で事業利益は減少したものの
当期利益は52%増加し191億円となった

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

5

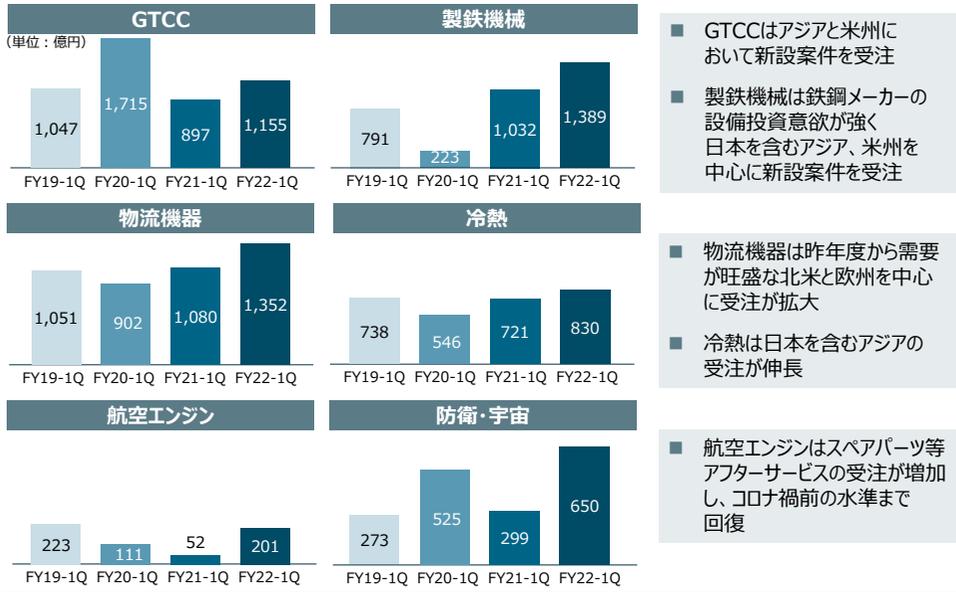
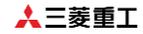
また、このページを使用して決算実績の要旨を説明します。

ポイントを補足しますと、受注高・売上収益は、前年同期から増加しました。特に、受注高の伸びは大きく、年間見通し3兆7,000億円に対する進捗率は約25%と、例年になく高いレベルとなっています。

事業利益は、スライド10ページで説明する欧州拠点縮小に伴う一時費用の計上などもあって、前年同期対比で減益となりましたが、その一方で、円安進行に伴う為替差益もあり、当期純利益は、前年同期比で約52%の増益となりました。

また、フリー・キャッシュ・フローは、前年同期とほぼ同水準となっています。

決算ハイライト 受注高



このページでは、前年同期比で受注の増加した主な製品について、過去からの第1四半期での受注実績推移を掲載しています。

GTCCでは、香港電力向けなどで大型ガスタービンを5台受注しました。

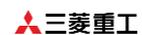
製鉄機械は好調な受注が続いており、今期の1,389億円の受注は、四半期単位で見ると過去最高となっています。

物流機器や冷熱も、マーケットの需要は堅調で、足元では生産サイドが制約条件となっています。

Ⅱ. 2022年度第1四半期決算実績

このページ以降では、決算実績をもう少し詳細に記載しています。

連結経営成績サマリー



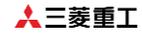
(単位：億円)	FY2021-1Q (利益率)	FY2022-1Q (利益率)	増減 (利益率)	(増減率)
受注高	7,504	9,178	+1,673	(+22.3%)
売上収益	8,517	8,713	+196	(+2.3%)
事業利益	214 (2.5%)	149 (1.7%)	△65 (△0.8%)	(△30.4%)
親会社の所有者に 帰属する当期利益	126 (1.5%)	191 (2.2%)	+65 (+0.7%)	(+51.7%)
EBITDA	537 (6.3%)	472 (5.4%)	△65 (△0.9%)	(△12.2%)
フリー・キャッシュ・フロー	△1,673	△1,597	+75	

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

8

このページの数表は繰返しとなりますので、説明は省略いたします。

連結財政状態、キャッシュ・フロー



連結財政状態	(単位：億円)	FY21末	FY22-1Q末	増減
売上債権（営業債権、契約資産）		13,994	13,940	△53
棚卸資産		7,986	8,845	+859
その他流動資産		6,050	7,423	+1,373
（現金及び現金同等物）		(3,142)	(3,791)	(+648)
固定資産		9,892	10,088	+195
投資等		13,239	13,349	+110
資産合計		51,163	53,648	+2,485
営業債務		8,632	7,657	△975
契約負債		8,865	9,321	+456
その他		9,690	9,836	+145
有利子負債		7,349	9,694	+2,345
資本		16,625	17,138	+513
（うち親会社の所有者に帰属する持分）		(15,766)	(16,212)	(+446)
負債・資本合計		51,163	53,648	+2,485
キャッシュ・フロー	(単位：億円)	FY21-1Q	FY22-1Q	増減
営業キャッシュ・フロー		△1,424	△1,481	△56
投資キャッシュ・フロー		△248	△115	+132
フリー・キャッシュ・フロー		△1,673	△1,597	+75

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

9

このページでは、バランスシートおよびキャッシュ・フローについて記載しています。

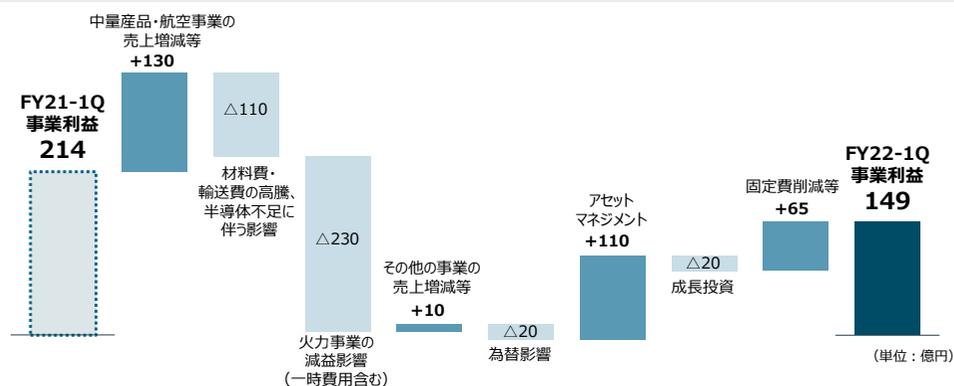
総資産は、21年度末から**2,485億円**増加の**5兆3,648億円**となりました。

増加の内訳としては、円安進行に伴う外貨建資産の換算影響が、約**1,300億円**生じています。また、手元現預金の増加が**600億円**強、その他に棚卸資産の増加等といった内容であり、通常の変動の範囲内で推移しています。

キャッシュ・フローは、投資キャッシュ・フローが前年同期対比で改善していますが、これは、不動産および有価証券の売却が寄与しています。

事業利益増減分析

- 材料費・輸送費の高騰の影響が利益を押し下げても、中量産品・航空事業の売上増により挽回。価格適正化の効果は年度後半より顕在化する見込み
- 火力事業において前年同期の好採算工事進捗の反動により前年同期比で利益が減少。加えて、石炭火力事業の欧州拠点縮小に伴う一時費用を計上
- 一部工事の特殊要因として円安進行に伴う見積りコスト増などにより利益を押し下げ
- アセットマネジメント、固定費削減は順調に進捗し、事業利益を押し上げ



© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

10

このページでは、前年同期対比での事業利益の増減要因について説明しています。

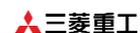
一番左端の棒グラフ、21年度第1四半期の事業利益は214億円でした。中量産品や航空エンジン事業等の増収効果が130億円あったものの、その一方で材料費・輸送費高騰やサプライチェーン混乱による生産調整の影響で、110億円の減益が生じました。

その右隣の棒グラフ、火力事業の減益影響について少し補足します。大きな要素は二つあります。一つは、昨年の第1四半期に決算した、好採算工事の反動が表れているもの。もう一つは、石炭火力事業を主体としている、ヨーロッパの拠点についての事業構造改革費用を計上したことです。

石炭火力事業は、既に皆様ご承知の通り、カーボンニュートラルに向けた流れの中で、グローバルにマーケットが縮小しつつあります。当社はこれまでも、国内製造拠点の集約や、三菱パワーの三菱重工への統合など、リソースの最適化とエナジートランジションへの対応という視点でトランスフォームを進めてきていますが、今回の欧州拠点の再構築も、この流れに沿ったものです。

その他、このスライドに記載しました要因で増減し、当期の事業利益は149億円となりました。

2022年度第1四半期決算実績 セグメント別内訳



	受注高			売上収益			事業利益		
	FY21 1Q	FY22 1Q	増減	FY21 1Q	FY22 1Q	増減	FY21 1Q	FY22 1Q	増減
(単位：億円)									
エナジー	2,354	3,065	+711	3,370	3,495	+124	87	△24	△112
プラント・インフラ	2,208	2,424	+215	1,549	1,318	△231	72	8	△64
物流・冷熱・ ドライブシステム	2,412	2,808	+396	2,350	2,659	+309	101	20	△80
航空・防衛・宇宙	618	970	+352	1,308	1,290	△17	35	65	+29
全社又は消去	△89	△90	△1	△61	△50	+11	△82	79	+162
合計	7,504	9,178	+1,673	8,517	8,713	+196	214	149	△65

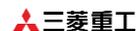
© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

11

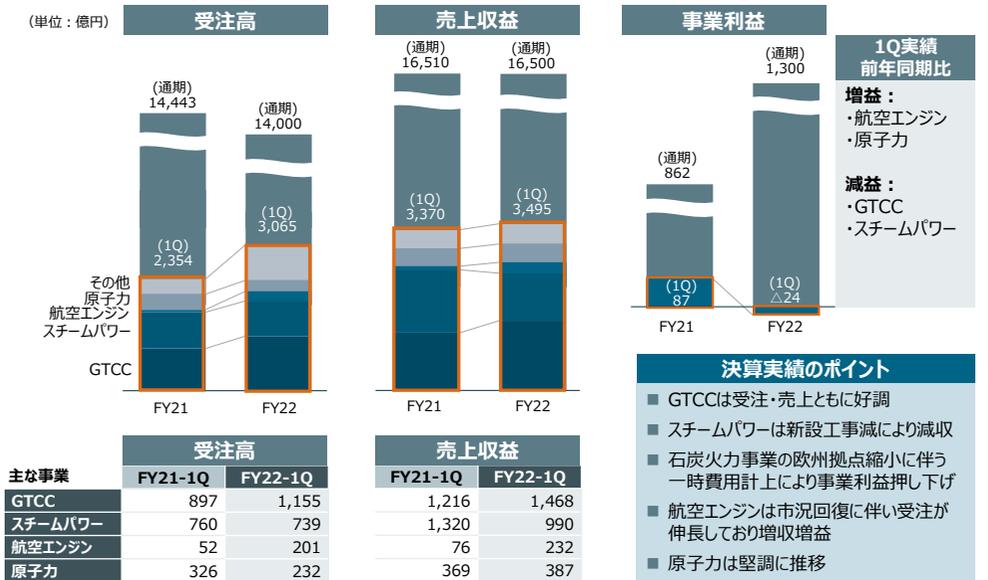
このスライドでは、セグメント別の受注・売上・事業利益をまとめて表示しています。

次のページ以降で、セグメント別に説明します。

セグメント別 決算実績 <エナジー>



(単位：億円)



© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

12

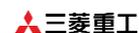
このページでは、エナジーセグメントの状況を記載しています。

受注・売上は順調な立ち上がりとなりました。

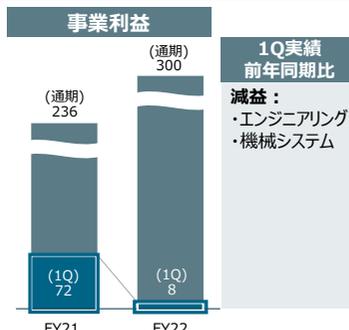
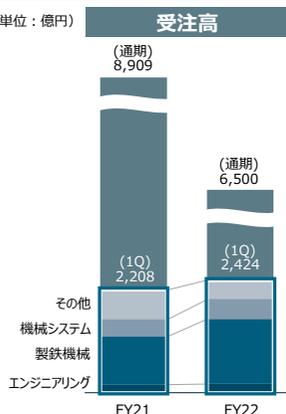
事業利益は、マイナスでのスタートとなってしまいましたが、先ほど申し上げた、欧州拠点縮小に伴う一時費用の計上の影響が大きく出ています

航空エンジンなど、増益基調を見せている事業もありますので、第2四半期以降の回復を見込んでいます。

セグメント別 決算実績 <プラント・インフラ>



(単位：億円)



**1Q実績
前年同期比**
減益：
・エンジニアリング
・機械システム

主な事業	受注高	
	FY21-1Q	FY22-1Q
エンジニアリング	181	199
製鉄機械	1,032	1,389
機械システム	366	426

	売上収益	
	FY21-1Q	FY22-1Q
	303	227
	604	561
	284	286

決算実績のポイント

- 製鉄機械は、鉄鋼メーカーの設備投資意欲が強く、日本を含むアジア、米州において新設案件を受注し、好調であった前年同期の受注高を上回る
- 一部案件において円安進行に伴う見積りコスト増加により事業利益を押し下げ

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

13

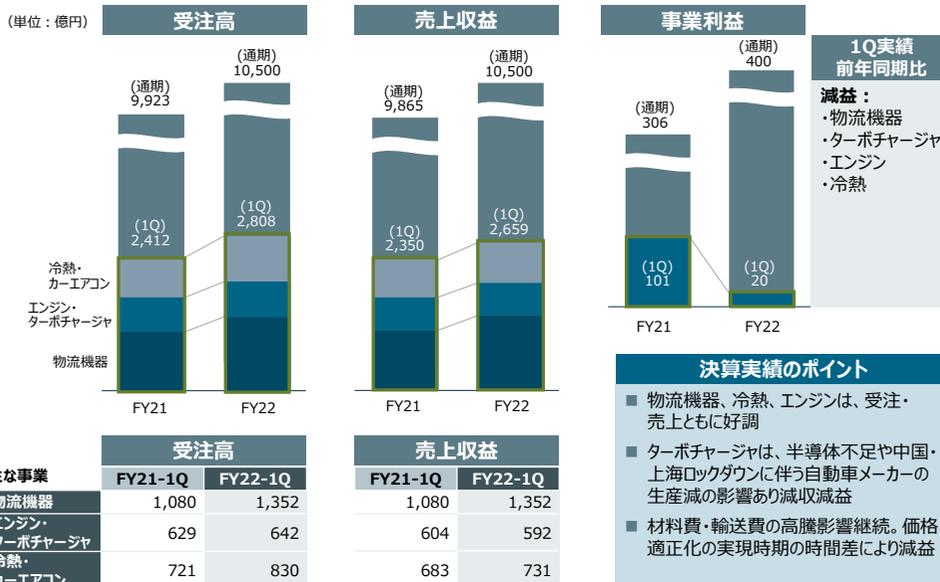
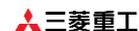
このページでは、プラント・インフラセグメントの状況を記載しています。

前年同期比で減益となりましたが、この主要因は、為替の影響です。

当社は、基本的には円安が増益要因となる事業構造なのですが、当期においては、会計処理のテクニカルな要因もあり、一時的に減益効果の方が大きくなりました。

この事象は、為替水準が安定すれば薄まってくる、あるいは、円高に振れば戻ってくるものですので、年度では吸収されると見込んでいます。

セグメント別 決算実績 <物流・冷熱・ドライブシステム>



© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

14

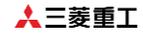
このページでは、物流・冷熱・ドライブシステムセグメントの状況を記載しています。

セグメント全体としては、受注・売上は堅調な立ち上がりを見せた一方、事業利益は年間見通しに対して低調な滑り出しとなりました。

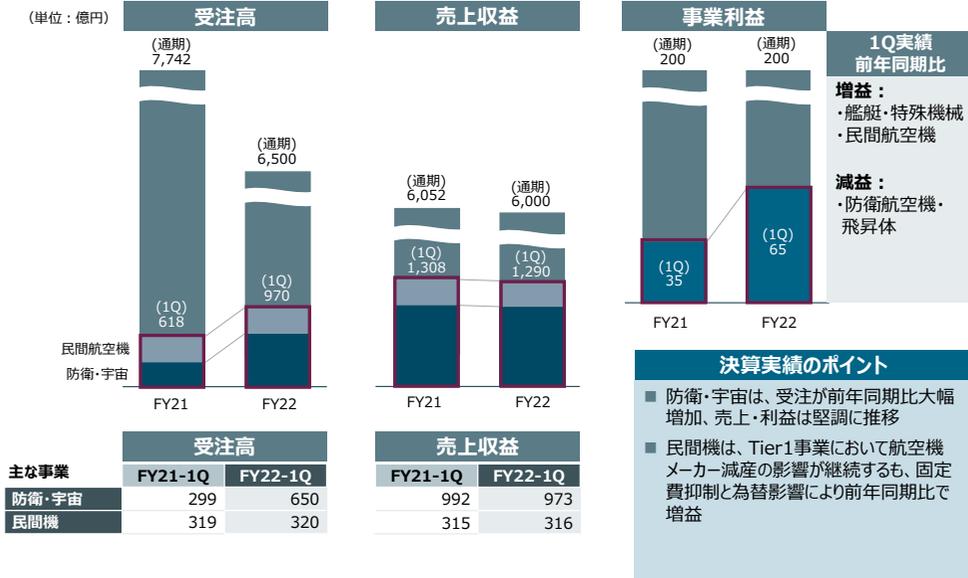
第1四半期の時点では、昨年来取り組んでいる売価アップの効果よりも、足元のコストアップの影響の方が大きく表れていますが、われわれの想定では、年度後半から売価アップの効果刈取りが進むと見えています。

半導体不足等の改善が進むことが前提にはなりますが、年間の業績見通しの達成は、充分可能と考えています。

セグメント別 決算実績 <航空・防衛・宇宙>



(単位：億円)



© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

15

このページでは、航空・防衛・宇宙セグメントの状況を記載しています。

民間航空機Tier1事業は、ボーイング向けの出荷機数が戻ってこない厳しい状況が続いていますが、固定費抑制に加えて、今期は為替円安基調のメリットがあり、前年同期比で増益となりました。年度見通し達成に向けては、順調な滑り出しといえると評価しています。

Ⅲ. 2022年度業績見通し

本資料に記載している業績見通し等の将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したもので、リスクや不確実性を含んでおり、また、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。従いまして、この業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。実際の業績は、様々な重要な要素により、この業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素には、当社グループの事業領域をとりまく経済情勢、対ドルをはじめとする円の為替レート、日本の株式相場などが含まれます。

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

このページ以降では、22年度の業績見通しを記載しています。5月に発表した内容から変更ございませんので、内容の説明は省略します。

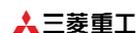
決算関係の説明はここまでとなりますが、本日、決算と同時にトランジションボンドの発行に関するリリースを出しています。当社は、一昨年、昨年と、2年連続でグリーンボンドを発行してきましたが、今回は、本年3月に経済産業省による「クライメート・トランジション・ファイナンスモデル事業」のモデル事例に選定いただけたこともあり、ESG債の枠組みの一つである、トランジションボンドとして、発行することとしたものです。

当社は、これら資金を水素製造技術や水素焚きガスタービンの開発など、エナジートランジションに関する技術開発や事業開発などに充当することとしており、これらの資金も活用しながら、カーボンニュートラル社会実現に向けた取り組み、MISSION NET ZEROを推進してまいります。

以上をもちまして、私からの説明を終了します。

ありがとうございました。

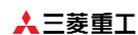
2022年度業績見通し サマリー



前回公表値（2022年5月12日）から変更なし

(単位：億円)	2021年度 (利益率)	2022年度 (利益率)	増減 (利益率)	(増減率)
受注高	40,677	37,000	△3,677	(△9.0%)
売上収益	38,602	39,000	+398	(+1.0%)
事業利益	1,602 (4.2%)	2,000 (5.1%)	+398 (+0.9%)	(+24.8%)
親会社の所有者に 帰属する当期利益	1,135 (2.9%)	1,200 (3.1%)	+65 (+0.2%)	(+5.7%)
ROE	7.7%	7.7%	-	
EBITDA	2,924 (7.6%)	3,300 (8.5%)	+376 (+0.9%)	(+12.9%)
フリー・キャッシュ・フロー	3,018	△1,000	△4,018	
配当	100円 中間45円/期末55円	120円 中間60円/期末60円	前提為替レート：1ドル=120円、1ユーロ=130円 未確定外貨：24億ドル、4億ユーロ	

2022年度業績見通し セグメント別内訳

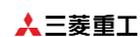


前回公表値（2022年5月12日）から変更なし

	受注高			売上収益			事業利益		
	FY21 実績	FY22 見通し	増減	FY21 実績	FY22 見通し	増減	FY21 実績	FY22 見通し	増減
(単位：億円)									
エネルギー	14,443	14,000	△443	16,510	16,500	△10	862	1,300	+438
プラント・インフラ	8,909	6,500	△2,409	6,518	6,500	△18	236	300	+64
物流・冷熱・ ドライブシステム	9,923	10,500	+577	9,865	10,500	+635	306	400	+94
航空・防衛・宇宙	7,742	6,500	△1,242	6,052	6,000	△52	200	200	0
全社又は消去	△341	△500	△159	△345	△500	△154	△3	△200	△198
合計	40,677	37,000	△3,677	38,602	39,000	+398	1,602	2,000	+398

IV. 補足資料

参考データ



大型ガスタービン 受注台数・契約残台数

	FY21-1Q	FY21通期	FY22-1Q
米州	-	5	1
アジア	1	5	3
EMEA	-	-	1
その他	-	6	-
合計	1	16	5
契約残台数	46	46	46

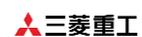
民間航空機 出荷機数

777	1Q	2Q	3Q	4Q	合計
FY21	5	4	6	5	20
FY22	6	/	/	/	6

777X	1Q	2Q	3Q	4Q	合計
FY21	2	1	1	0	4
FY22	1	/	/	/	1

787	1Q	2Q	3Q	4Q	合計
FY21	14	5	4	2	25
FY22	5	/	/	/	5

参考データ



研究開発費、減価償却費、設備投資

(単位：億円)

	FY21-1Q	FY22-1Q	2022年度見通し
研究開発費	227	207	1,300
減価償却費	323	323	1,300
設備投資	208	261	1,300

販売費及び一般管理費

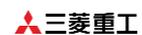
(単位：億円)

	FY21-1Q	FY22-1Q
販管費	1,365	1,429

為替レート (売上計上平均レート)

	FY21-1Q	FY22-1Q
USドル (円 / USドル)	108.7	125.0
ユーロ (円 / ユーロ)	132.1	136.0

参考データ



受注残高 (単位: 億円)	FY21-4Q	FY22-1Q
エナジー	31,144	31,967
プラント・インフラ	12,434	13,475
物流・冷熱・ドライブシステム	432	583
航空・防衛・宇宙	10,871	10,565
合計	54,885	56,595

地域別売上高 (単位: 億円)	FY21-1Q	FY21通期	FY22-1Q
日本	3,882 (46%)	18,877 (49%)	3,607 (41%)
アジア・パシフィック	1,578 (19%)	7,116 (18%)	1,715 (20%)
米州	1,700 (20%)	7,399 (19%)	2,193 (25%)
EMEA	1,355 (16%)	5,208 (14%)	1,197 (14%)
合計	8,517 (100%)	38,602 (100%)	8,713 (100%)

MOVE THE WORLD FORWARD MITSUBISHI
HEAVY
INDUSTRIES
GROUP

